

核燃料搬入を申請

羽刈川崎 柏崎

東電早ければ来月15日

東京電力は28日、停止中の柏崎刈羽原発7号機(新潟県)について、早ければ4月15日にも原子炉に核燃料を搬入する計画を原子力規制委員会に申請しました。再稼働には地元自治体の同意も必要となるため、具体的な時期は見通せないままです。

柏崎刈羽原発は6、7号機が2017年、再稼働に必要な規制委員会の審査に合格しましたが、18年以降にテロ対策関連の不祥事が相次ぎ発覚。規制委は事実上の運転禁止命令を出した上で、21年10月から改善状況を確認する追加検査を行っていました。昨年12月に改善

が確認されたと判断して、命令を解除していました。東電は申請について「安全対策工事と燃料装荷(搬入)前の検査が一巡し最終確認も整ったため」と説明。「規制委から承認が得られれば、燃料装荷を行う」とコメントしました。